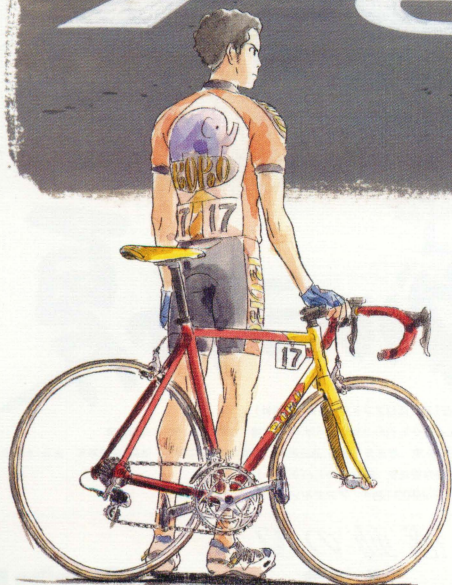


遠くへ行きたい。



茄子 アンダルシアの夏

原作: 黒田硫黄

監督・脚本: 高坂希太郎

制作: マッドハウス 配給: アスミック・エース  © 2003 「茄子 アンダルシアの夏」製作委員会

忘れられない夏がくる

制作快調、2003年夏休み全国公開!

風に乗る快感。この夏、誰でも遠くへ行ける! その瞬間、自転車は地上最速となる!!

期待しています。

高坂さんのことだからきっと何か
新しい自転車の表現をしてくれるんだろうと。

大友克洋 (漫画家・映画監督)

原作を読んで驚き、

アニメになると聞いて驚きそして納得。
非常に楽しみです。

菊田潤一 ((株)シマノ・元プロロードレーサー)

速すぎる男が

面白すぎる男の原作を得て、
遂に禁断の自転車アニメが誕生する!!

寺田克也 (漫画家・イラストレーター)

アカデミー賞受賞作

『千と千尋の神隠し』の作画監督
高坂希太郎、待望の監督デビュー!

「千と千尋」をやっている最中でした。宮崎さんからこの漫画を「読めっ」ていきなり渡されたんです。そしたらすごく面白くて。「これ、いいじゃないですか。映画化しましょうよ」って言ったら、「いや、オレにはそんな元気ない」って(笑)。そこで、じゃあ、僕自身で...

先頃アカデミー賞を受賞し、世界的な話題を撒いた『千と千尋の神隠し』や『もののけ姫』で、スタジオジブリ・宮崎駿作品の“絵”を支えてきた作画監督・高坂希太郎。彼が自転車をテーマに、ついに監督デビューを果たす。実は監督自身、アマチュア自転車レースで上位入賞経験があり、自転車に関しては本格派。まさに本作は渾身の一作となるだろう。

がんばれ モンチ!

がんばれ 高坂くん!!

宮崎 駿、鈴木敏夫

(スタジオジブリ・プロデューサー)

空前の自転車ブームの中

誰も見たことがない

“自転車エンタテインメント”誕生

今、8,600万台の自転車がある。平均すると1.5人に一台。中国ですら2.6人に一台だから、これは世界的に見ても非常に高い保有率だ。ヨーロッパではサッカーと並ぶほどの人気スポーツだが、近年、日本でもいわゆるママチャリではなくマウンテンバイクやロードバイクの人気の急進に高まっている。

「自らの力で進み、風を引き裂き、風景が後方へと流れていく。そのスピードとの一体感を得られる道具は、自転車のほかにない」と高坂監督は自転車に乗る快感を言う。

学校へ行く、通勤する、買い物に行く...身近な生活手段としての自転車には、実は計り知れない「感動」と「興奮」が隠されているのだ。

熱狂的なファンをもつ

黒田硫黄の世界、完全映画化

原作は、鬼才漫画家・黒田硫黄のコミック「茄子」の一篇「アンダルシアの夏」。筆ペンが生み出す独自のタッチと陰影は、いきいきと生きる喜びを描き、宮崎駿、大友克洋、寺田克也らが惜しめない絶賛を寄せる。本年度「文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞」を受賞したばかりだ。本作は、この映像化不可能といわれた黒田ワールドに初めて挑む。



茄子 アンダルシアの夏

主人公ベベはひたすら走っていた。

そこは「ヴェルタ・ア・エスパーニャ」。

“ツール・ド・フランス”と並ぶ「世界三大自転車レース」の一つ。

勝利に恵まれず、まさに今、レースの真只中、解雇される事を知る。

やがて生まれ育ったスペイン、アンダルシアの村にさしかかった。

その瞬間、様々な思いがよぎる...

「...そうでなきゃ、生まれた土地から出て行けないだろう?

俺は遠くに行きたいんだ」

原作:黒田硫黄「茄子」より (全3巻/月刊アフタヌーンKC講談社)

監督・脚本:高坂希太郎 エグゼクティブ・プロデューサー:椎名保 プロデューサー:丸山正雄

美術監督:田中直哉 撮影監督:白井久男 編集:瀬山武司 音響監督:三間雅文 効果:倉橋静男 音楽:本多俊之

製作:「茄子 アンダルシアの夏」製作委員会 制作:マッドハウス

配給:アスミック・エース 配給協力:Amimik ©2003「茄子 アンダルシアの夏」製作委員会

世界待望 さあ、始まる 感動の夏

7月26日土 全国夏休みロードショー決定!